

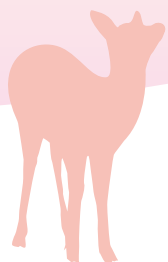


# まほろばだより

2018  
November  
vol.27

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第27号



## Contents

- ① Information 1 当センターの名称を「女性研究者・医師支援センター」に変更予定です
- ② Information 2 なかよし保育園の増築と定員の増員について紹介します
- ③ 本学教員の競争的資金獲得割合
- ④ 競争的資金獲得割合の推移
- ⑤ Information 3 研究支援員配置申請者の対象が不妊治療中の女性研究者にも拡大されました

### >> Information 1

## 当センターの名称を「女性研究者・医師支援センター」に変更予定です

女性研究者支援センターは平成23年2月に設立されました。同年、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に選定され、その後3年間は主として補助金による運営を行ってまいりましたが、平成26年度からは法人予算で運営しています。

設立当初から、「女性が働きやすい、働きがいのある職場」は、「男性にとっても働きやすく、働きがいのある職場」であるとの基本的な考えのもと、女性研究者はもとより本学に籍を置く教職員の皆さまや学生が、能力を発揮し活躍できるような職場・教育環境の整備に尽力してきました。平成27年度からは、センターの活動内容により即した名称が必要と考え、英語名をCenter for Diversity and Inclusion (CDI) としています。

今後は、本学の研究者の多くを占める医師に対して、より一層の研究支援や職場環境の整備を行うことをめざし、センターの日本語名を平成31年4月から「女性研究者・医師支援センター」に変更予定です。変更が正式に決定しましたら、当まほろばだより、当センターのホームページ等を通してお知らせさせて頂く予定です。

名称変更後も設立当初からの基本方針を忘れることなく、全ての教職員に貢献できるよう取り組んで参りますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### >> Information 2

## なかよし保育園の増築と定員の増員について紹介します

教職員の保育ニーズに対応するため、法人は学内保育園(なかよし保育園)を平成24年度に全面改築し、平成27年度には園舎の増築ならびに定員の増員を行ってきました。このたび、0歳児から2歳児までの保育室を備えた新館が完成し、平成30年10月からは、各年齢の定員が25名、総定員が150名となります。9月27日に新館の内覧会が行われ、当センターの須崎マネージャーも出席いたしました。内覧会の席上で細井理事長・学長から、保育園の拡充は教職員の福利厚生のみならず、少子高齢社会の課題解決にもつながる大切なモデルケースであるとのこと挨拶がありました。



新館内覧会の様子

進化を続けるなかよし保育園は、本学の発展を象徴するシンボルの一つとなっています。親子の笑顔があふれる保育環境は、保育士等現場職員の皆さまと法人関係者の方々のご尽力の賜物と深く感謝いたします。

新館の紹介  
パンフレット

壁画アート

明るい  
保育室

定員数が増えました！

増築前

0歳	15名
1歳	15名
2歳	15名
3歳	15名
4歳	15名
5歳	15名

増築後

0歳	25名	新館
1歳	25名	
2歳	25名	
3歳	25名	本館
4歳	25名	
5歳	25名	

## 本学教員の競争的資金獲得割合

現在多くの大学にとって外部資金獲得及び財源の多様化は取り組むべき課題となっています。外部資金獲得において最も一般的なのは競争的資金の獲得です。

以下に示す競争的資金とは、科学研究費助成事業、厚生労働省科学研究費補助金、日本医療研究開発機構研究費、科学技術振興機構研究費、戦略的情報通信研究開発推進事業です。

図1 専任教員数（平成30年8月現在）

	性別	人数	合計
教養教育部門／法人・大学内の組織	男	21	24
	女	3	
基礎医学教育部門	男	34	51
	女	17	
臨床医学教育部門	男	231	270
	女	39	
看護学科	男	6	35
	女	29	
全体	男	292	380
	女	88	

(人)

図2 部門別の専任教員割合

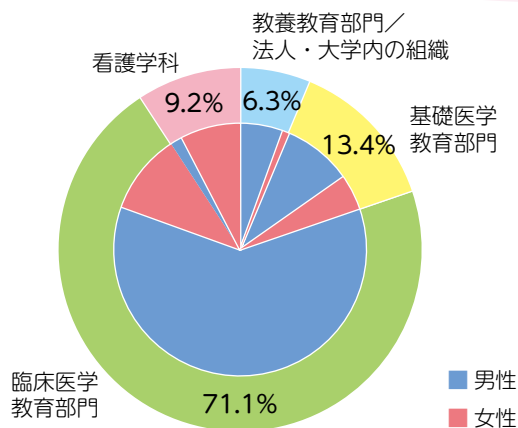


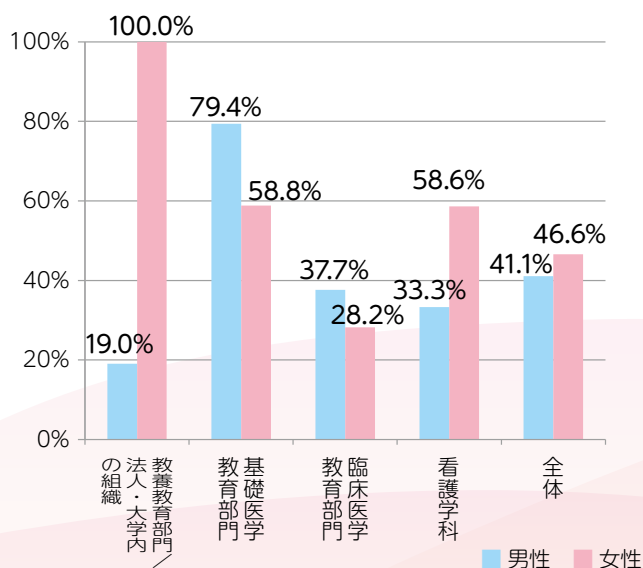
図3 競争的資金獲得教員数（平成30年8月現在）

	性別	人数	合計	獲得割合	割合
教養教育部門／法人・大学内の組織	男	4	7	19.0%	29.2%
	女	3		100.0%	
基礎医学教育部門	男	27	37	79.4%	72.5%
	女	10		58.8%	
臨床医学教育部門	男	87	98	37.7%	36.3%
	女	11		28.2%	
看護学科	男	2	19	33.3%	54.3%
	女	17		58.6%	
全体	男	120	161	41.1%	42.4%
	女	41		46.6%	

\* p<0.05

(人)

図4 男女別競争的資金獲得教員割合



今年度競争的資金を獲得している専任教員は161人で、平成29年度の161人と同数ですが、教員全体の獲得割合では平成29年度の43.2%（373人中161人）から42.4%（380人中161人）と少し下がりました。部門別では、基礎医学教育部門教員の獲得割合が72.5%（51人中37人）と最も高く、次いで看護学科教員が54.3%（35人中19人）となっています。一方、臨床医学教育部門教員の獲得割合は36.3%（270人中98人）にとどまっており、教養教育部門／法人・大学内の組織に所属する男性教員と臨床医学教育部門の女性教員の獲得割合は30%未満の状況です。

今年度の競争的資金獲得に関する詳細なデータは当センターのホームページでも公開していますのでぜひご覧ください。

## Report 2 競争的資金獲得割合の推移

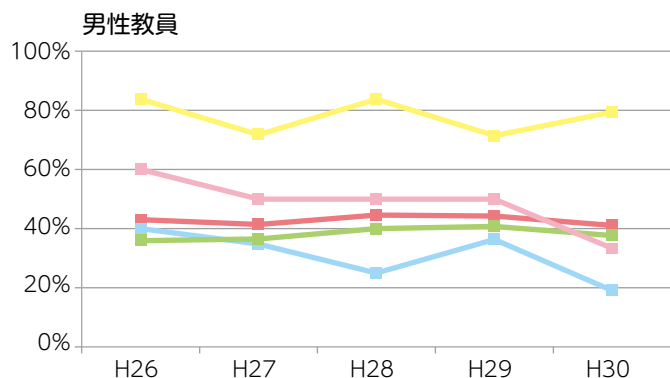
平成26年度から平成30年度の本学における競争的資金獲得割合の推移についてご紹介します。

本学教員の競争的資金獲得割合は、直近3年間は40%を超えており、過去5年間では緩やかに上昇しています。男女別で見ると、男性教員の獲得割合には大きな変化を認めませんが、女性教員の獲得割合は年々上昇し、平成30年度には男性教員41.1%、女性教員46.6%と女性教員の獲得割合が男性教員を上回っています(図1)。法人全体で取り組んできた女性研究者に対する支援活動の成果と思われます。

部門別に見ると、基礎医学教育部門は過去5年間にわたり70%前後の教員が競争的資金を獲得し、本学で最も高い獲得割合を維持しています。一方、平成26年度には獲得割合が最も低かった看護学科が躍進し、平成29年度以降は本学で2番目に高い部門となっています。平成30年度には看護学科教員の過半数が競争的資金を獲得するに至っています(図2)。

### 図2 部門別競争的資金獲得教員割合の推移

- 全体
- 教養教育部門/法人・大学の組織
- 基礎医学教育部門
- 臨床医学教育部門
- 看護学科

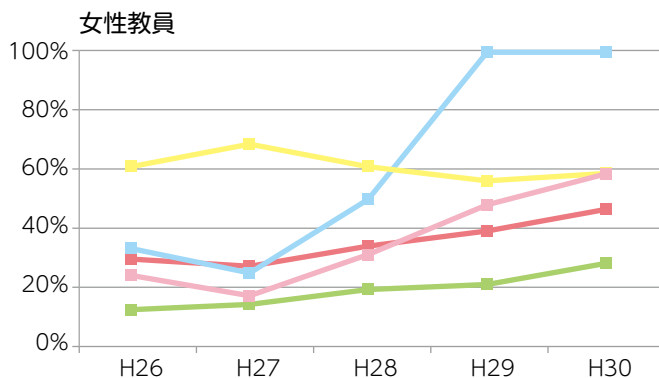
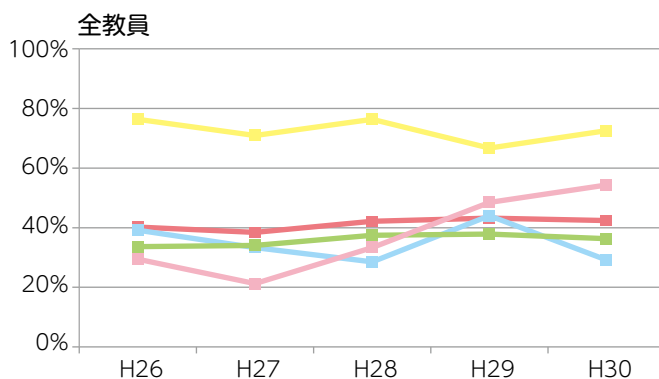
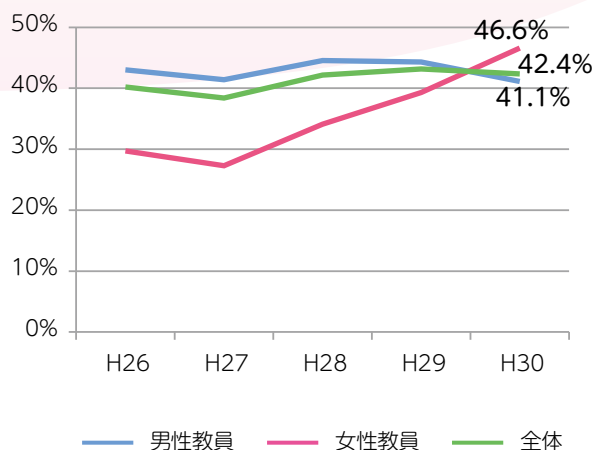


一方、教員数が最も多い臨床医学教育部門では、過去5年間の獲得割合は30%台にとどまっており、臨床、教育と研究を両立する難しさが浮き彫りになっています。しかし、臨床医学教育部門においても、女性教員の獲得割合は徐々に高くなり、平成26年度の12.5%から平成30年度には28.2%に上昇しています。今年度は、これまで臨床医学教育部門で認めた男女教員間における獲得割合の有意差が、初めて解消されました(図3)。

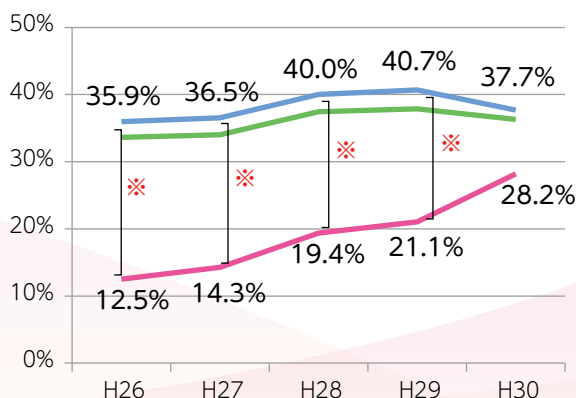
女性研究者支援センターでは、今後も引き続き、女性の研究力向上を目指して、様々な活動を続けていきたいと思えます。

- 男性教員
- 女性教員
- 全体
- ※ p<0.05

### 図1 競争的資金獲得教員割合の推移



### 図3 臨床医学教育部門における競争的資金獲得教員割合の推移



## 研究支援員配置申請者の対象が不妊治療中の女性研究者にも拡大されました

女性研究者支援センターでは、妊娠・出産・育児・介護等のライフイベントにより一定期間、研究時間が十分に確保できない女性研究者に対して、研究支援員を配置する取り組みを行っています。しかし現在はこれらのライフイベントに限らず、晩婚化を背景に不妊治療を受ける夫婦が増加しており、働きながら不妊治療を受ける女性も増加しています(図1)。治療は体力、時間、精神的な負担を伴うため、仕事と治療の両立が難しく不妊退職に至った割合は不妊治療の経験がある女性労働者の23%にのぼるというアンケート結果もあり(図2)、不妊治療当事者に対する支援が求められる社会となっています。

そこで、当センターでは9月6日より研究支援員配置申請者の対象を不妊治療中の女性研究者にも拡大することにしました。今後、研究支援員の配置をご希望の際は、申請時に「不妊治療連絡カード」(図3)のような不妊治療中の状況が分かる書類の添付をお願い致します。このカードは、従業員が雇用側に不妊治療の現状を理解してもらい、仕事と治療を両立するための通知カードで、厚生労働省のホームページよりダウンロードが可能です。

当センターでは、不妊治療中の女性研究者への研究支援員配置申請者の対象拡大を通して、仕事と不妊治療の両立について職場での理解を深め、職員が働きやすい環境を整えられるよう啓蒙活動を続けていきます。

### 研究支援員配置申請者の対象について

本学に所属する常勤の女性教員(教授、准教授、講師、助教)、診療助教及び研究助教で、以下に当てはまる方

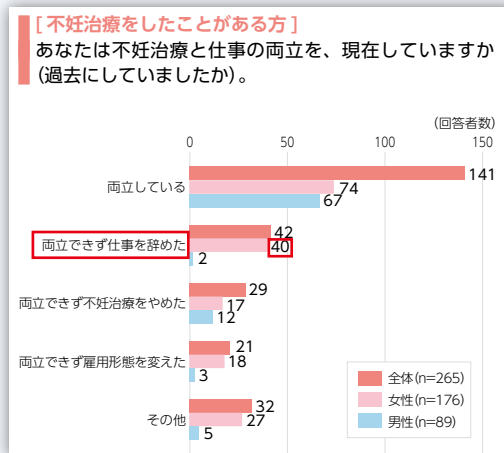
- (1) 妊娠から出産までの期間の方
- (2) 子育て中で小学校6年生までの子供を自身で主に養育している方
- (3) 要介護者・要看護者である家族を自身が主に介護・看病している方

**(4) 不妊治療中の方** ← 平成30年9月6日より拡大

図1 リフレット「仕事と不妊治療の両立支援のために」(厚生労働省)



図2 「仕事と不妊治療の両立支援について」労働者アンケート結果(一部抜粋)※



※厚生労働省平成29年度「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査」労働者アンケート調査

図3 不妊治療連絡カード



◆不妊治療連絡カードはこちら

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/pamphlet/dl/30b.pdf>

### 【編集後記】

今号では昨年に申請し、今年度採択されている競争的資金についてご紹介いたしました。配布されるころには今年度の科学研究費の申請作業が終わり一息つかれているところでしょうか。お疲れ様でした、採択されますことをお祈りしています。支援員配置制度の対象者が不妊治療を受けている方へも拡大され、次の募集から適用されます。センターの名称も変更予定です。変化しつつ、活動を続けていきたいと思ひます。

### 【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL : 0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代)内線 : 2525  
E-mail : jshien@narmed-u.ac.jp

